

令和5年7月5日 先進地視察 質疑応答

分野	質疑事項	沼田町回答
移住 定住	移住に関する支援が充実していますが、移住希望の方はファミリー層が多いのでしょうか。	こちらが子育て世代をターゲットにしていることもあり、子育て世代は多い傾向にあります。
	一旦地元を離れた人が戻ってくるケースも多いのでしょうか。	特にそのような傾向が多いとは感じません。
	「移住定住応援室」は何名体制なのでしょうか。また、移住定住応援室を設置することに至ったきっかけは何でしょうか。	住民生活課の課内室となっており、移住定住応援室長、主査、主事、移住コーディネーター、定住支援員の5名体制です。移住希望者の側に立ち、移住に関する問い合わせにワンストップで対応したいと思ったのが設置のきっかけです。
	移住定住に関する問い合わせ件数はどのくらいありますか。	「ちょっと暮らし」に関するものを含めると100件ほどです。
	具体的にどのような移住施策を行ったのでしょうか。何が一番効果があったと思いますか。また、PRの手法・使用した媒体はどのようなものですか。	具体的な施策は別途ご説明いたしますが、何が一番効果があったのかは不明です。PR手法はさまざまですが、インナーブランディングを仕掛ける手法として、町民がポスターやCMを手作りしたのは大きな反響がありました。
	移住はどのような方をターゲットにしているのでしょうか。また、実際の移住者はどのような方が多いのでしょうか。どのような年代で、どこから来たのでしょうか。移住後はどのような仕事をなさっているのでしょうか。	ターゲットは、子育て世代です。そのため、移住される方も子育て世代、比較的若い年代が多くなっています。関東・関西を中心に、遠くは沖縄から近くは留萌市までさまざまな地域から来ています。
	元々住んでいる方は、移住者を厚遇することをどのように感じているのでしょうか。町民の理解は得られているのでしょうか。得られているとすれば、どのような方法を取ったのでしょうか。	移住者だけを優遇するのではなく、住んでいる人も受益できる仕組みとしています。なお、北海道を開拓したという風土のせいなのかは分かりませんが、町民の中に「よそ者意識」はあまり感じられません。
	「ちょっと暮らし」の体験者数は。また、それが移住に結び付いたケースはどのくらいありますか。	延べ3,000件実施し、移住に結び付いたのは現在のところ2件です。ただ、今後移住する可能性もありますし、いつ移住に結び付くのかは分かりません。
その他	町役場の職員は地元出身の方が多いのでしょうか。	沼田町出身者は約3分の1です。ただし、最近の採用を見ると8割方が町外出身です。
	2017年から社会人口が増に転じているのは、特にどのような取り組みの成果が出ているのでしょうか。	地域おこし協力隊の積極的な採用と「空き家バンク」の仕組みがうまく機能していると思います。
	転出の主な理由は何ですか。	高校卒業時の大学進学・就職によるものが多くなっています。
	無料職業紹介所「ぬまわーく」には、年間どのくらいの相談件数がありますか。また、町外からの相談はありますか。	件数等不明です。
	町をあげて数々のイベントを企画し、様々な新しい事業や試みに取り組んでおられますが、それらは町民からの声・要望に応える形で行われているのでしょうか。	町が推したいものもあれば、文化として町に定着しているものもあり、さまざまです。
	夜高あんどん祭りの協力体制はどのようになっているのでしょうか。観光協会・商工会(特に商工会女性部の方)の役割は。	町内挙げてということになりますが、商工会が各種団体をリードする役割を担っています。
	夜高あんどん祭り当日の日中は、何か別のイベント等を行っているのでしょうか。	あんどんの体験事業を行っています。
	「まちなかほっとタウン」が整備された経緯は。また、運営に町はどの程度関わっているのでしょうか。	経緯は色々ありますが、直接のきっかけは、Aコープが撤退することになったこととJAの建物の老朽化が激しかったことです。町・商工会・JAが出資して設立した「株式会社まちづくりぬまた」が建物の管理運営を行っており、その会社に町職員を1名派遣しています。